

第1回産婦人科「スプリングフォーラムー若手医師の集いー」開催報告

平成23年3月5日（土）から6日（日）の二日間にわたって京都・平安ホテルにおいて第1回スプリングフォーラムを開催しました。

このフォーラム開催は、日本産科婦人科学会学術集会の「第2回若手医師企画」の準備にあたりました若手医師グループの面々が「このような若手医師の横の連携をもっと広げたい」という熱い思いを語ったことが発端であり、学会の教育委員会および理事会の賛同を得て、この度、開催にこぎつけることができました。

今回、各地域・大学から推薦されました若手医師、いずれも今後の産婦人科を背負って立つ前途有望の若者が集うこととなりました。産婦人科学と医療の未来をいっしょに考え、産婦人科医の将来を大きく展望する会になったものと思います。

なお、参加者のアンケート結果を検証し、来年もさらに充実した内容での開催を計画しております。

公益社団法人日本産科婦人科学会
教育委員会委員長 小西 郁生

スプリングフォーラムレポート
スプリングフォーラムの様様



第1回産婦人科スプリングフォーラム 2011.3.5～6 於：京都平安会館



第1回スプリングフォーラムに参加して

第2回若手医師企画若手グループ委員

京都医療センター

関山 健太郎

全国の大学病院、地域の基幹病院から68名の若手医師が集まり、3月初旬の京都で第1回スプリングフォーラムが開催されました。毎年8月に学生と研修医を対象に行われているサマースクールの成功を受けて、その次の世代つまり産婦人科専門医取得前後を対象にして全国的な若手医師の横の繋がりを作るために行われた初めての試みです。1泊2日の日程でシンポジウムと講演、ワークショップがありました。

シンポジウムでは「子宮内膜症に対する挑戦」と題して、子宮内膜症の分野を代表する5人の“Top Doctors”から研究と臨床の両面で最新の内容をレクチャーしていただきました。研究そのものの内容にとどまらず、臨床医が研究をする意味・理念を示されました。特に、「君の人生は君自身が決めるものではない」と教授に言われたことがきっかけに目から鱗が落ちて研究に没頭するようになった、というお話が印象に残りました。

講演「私はこうして歩んできた」では、倉敷成人病センターの金尾先生、横浜市立大学の宮城先生に産婦人科医師としての生き方を熱く語っていただきました。金尾先生の腹腔鏡手術に対するストイックなまでの情熱には参加者全員が驚愕していました。また、宮城先生の子宮頸癌撲滅に対する熱意には心を打たれました。普段の学会では聞けない、お二人のプライベートな魅力あふれるお話に、産婦人科医としてのやりがいと再認識することができ、モチベーションが大いに上がりました。

ワークショップでは、各グループに分かれて「産婦人科診療における理念と技能の伝承」について2日間にわたって話し合われました。まさに参加者自身が直面している問題であったため、多くの建設的な意見が出され白熱した議論がなされました。ここで議論された内容は日本産婦人科学会でも検討していただけるとのことで、産婦人科の未来を若手医師自身が考えて意見を出す場として大変有意義であったと思います。このような場がもっと増えれば、産婦人科全体が活性化するきっかけになるのではないかと思います。

夜の懇親会では、参加者同士で更に親睦を深めると同時に、各大学の教授をはじめチューターの諸先生方から学会では聞けないざっくばらんなお話を聞くことができました。産婦人科医師だけで結成された管弦楽団“NST”（日産婦 Sound Team）の演奏は圧巻でした。

スプリングフォーラムを通して全国的な若手医師の横の繋がりができることで、刺激を受けて産婦人科医としてモチベーションが上がったことと同時にもう一つ大切なことを得たと感じています。それは、全国的な結束力です。スプリングフォーラムが開催されたちょうど1週間後に東日本大震災が起こりました。大災害を目の当たりにして、改めて人と人との繋がりの大切さを痛感しました。スプリングフォーラムに参加した若手医師同士でも東日本に住んでいる医師に多くの応援のメールが届いたという話や、今回の参加者から被災地に派遣される若手医師の話も聞きました。横の繋がりが増えるほど全国的な結束力が強まり、困難なときを乗り越える力が発揮できるようになると思います。

今回のスプリングフォーラムの事後アンケートで参加者の97%が「参加したことが今後に役立つ・大いに役立つ」と返答していることから大変満足度が高かったことがわかります。来年以降も是非続けていただきたいとお願い申し上げます。

最後になりましたが、スプリングフォーラム開催にあたりご尽力くださった諸先生方に深く感謝いた

します。貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。